



三	つ	目	は	中	水	道	で	す	。	あ	ま	り	聞	き	覚	え	の	な		
い	言	葉	で	す	が	、	中	水	道	と	は	そ	の	名	の	通	り	上	水	
道	と	下	水	道	の	間	に	存	在	し	て	お	り	、	生	活	排	水	と	
産	業	排	水	の	再	利	用	を	す	る	役	目	に	あ	り	ま	す	。		
中	水	道	は	こ	の	生	活	排	水	と	産	業	排	水	が	下	水	道	へ	
行	く	前	に	、	も	う	一	度	人	の	身	体	に	影	響	を	及	ぼ	さ	
な	い	形	で	再	利	用	し	て	か	ら	下	水	処	理	を	さ	せ	る	と	
い	う	役	割	を	持	っ	て	い	ま	す										
残	念	な	が	ら	こ	の	中	水	道	を	現	実	的	に	使	用	で	き		
る	状	況	は	限	ら	れ	、	ほ	と	ん	ど	普	及	さ	れ	て	い	な	い	
そ	う	で	す	。																
こ	れ	ら	の	水	道	に	関	す	る	大	切	な	仕	組	み	を	調	べ		
て	み	て	、	水	道	と	は	自	分	た	ち	が	生	活	す	る	う	え	で	
毎	日	蛇	口	を	捻	れ	ば	水	が	出	て	く	る	上	水	道	だ	け	で	
な	く	、	そ	の	私	達	が	毎	日	排	出	し	た	生	活	排	水	な	ど	
を	綺	麗	に	また	利	用	で	き	る	よ	う	に	し	て	く	れ	る	下		
水	道	も	含	め	て	「	水	道	」	と	い	う	も	の	な	の	だ	と	改	
め	て	感	じ	ま	し	た	。													
ま	た	こ	れ	ま	で	は	、	節	水	す	る	こ	と	が	水	の	無	駄		
使	い	を	防	ぐ	こ	と	だ	と	思	っ	て	い	ま	し	た	。				

れ	を	裏	から	支	え	る	下	水	道	の	役	割	は	、	も	つ	と	重		
く	れ	て	い	る	上	水	道	に	目	を	向	け	が	ち	で	す	が	、	そ	
	私	達	は	自	分	た	ち	が	普	段	口	に	す	る	水	を	作	っ	て	
	き	ま	す	。																
	結	果	的	に	下	水	処	理	を	ス	ム	ー	ズ	に	行	う	こ	と	が	で
	す	る	と	水	道	に	流	れ	る	汚	れ	を	抑	え	る	こ	と	が	で	き
	ー	パ	ー	な	ど	で	ふ	き	取	っ	た	後	水	で	洗	い	流	し	た	り
	に	し	た	り	、	食	器	に	つ	い	た	油	汚	れ	を	キ	ツ	チ	ン	ペ
	し	た	り	、	油	を	固	め	る	製	品	を	使	っ	て	燃	え	る	ご	み
	開	紙	な	ど	を	使	っ	て	油	を	吸	収	し	燃	え	る	ご	み	に	出
		例	え	ば	、	使	い	終	わ	っ	た	油	を	処	理	す	る	時	、	新
	流	さ	れ	川	や	海	を	汚	染	し	て	し	ま	い	ま	す	。			
	ま	り	や	悪	臭	の	原	因	に	な	り	ま	す	。	そ	の	油	が	押	し
	と	で	す	。	排	水	口	に	油	を	流	す	と	、	下	水	道	管	の	つ
	が	ス	ム	ー	ズ	に	行	わ	れ	る	よ	う	に	お	手	伝	い	す	る	こ
		そ	の	た	め	に	私	達	が	で	き	る	こ	と	は	、	下	水	処	理
	球	の	未	来	の	た	め	に	も	な	る	の	で	す	。					
	こ	と	で	私	達	の	生	活	環	境	を	豊	か	に	で	き	る	し	、	地
	で	す	が	、	そ	れ	だ	け	で	な	く	下	水	道	を	正	し	く	使	う
		も	ち	ろ	ん	節	水	す	る	こ	と	は	と	て	も	大	切	な	こ	と



水を守る

東和中学校

三年

大友

萌衣

みなさんは水の大切さについて、深く考え

たことがありませんか。蛇口をひねればすぐに

飲める綺麗な水が出てくるし、コンビニ等に

行けば手軽な値段で名水が手に入れます。

飲み水は、あ、てあたり前な物になって、いる

と思います。水は、本当に生活にと、てとて

も大切なものです。

水の無い生活がどれだけ苦しいのか分

かる人が、多いと思います。なぜなら実際に水

の無い生活を強いられた経験をも、た人が、多

い、と思うからです。二〇一三年三月十一日に

起きた東日本大震災では、電気や水道水が止ま

り、苦しい生活をしたと思います。私は、なか

なか水道が普及しない中、近頃の湧き水を、毎

日汲みに行きました。水の使い道は、食事の準

備、飲み水として利用するのが、一番で、その他

は、できる限りの節約をしました。水道から水

が出たときは、家族全員で手をたたいて喜こん

No.2

No.1

だのをよく覚えています。そのとき水がど水  
だけ貴重なのかを感じることもできませんでした。

水道があつて蛇口をひねれば水が出てくる  
のは水道局で働く人がいるからです。水道局  
で働くという事はとても大変だと思います。  
飲める水になるまでの過程はたくさんあつて  
とにかく手がかかるなど痛感しました。たく  
さんの人のもとへ届き、たくさんの方が飲む  
水は、安全、衛生面ですごく気をつけられて  
いました。普通に身近にある水はたくさんの方の

苦勞があつてからこそだと思ひました。

世界の中には私たちのように普通に水を飲  
めない国がたくさんあります。洗濯する水や  
飲む水等、全ての生活用水を自然の中から集  
めているのです。地面を掘り、出てきた水を  
汲み、それを家まで運ぶというとても大変な  
ことをして、やつのことでも水を手に入れる  
ことができないという国もあるのです。地面か  
ら出てきた水をそのまま飲むとは、たくさん  
の雑菌が入り、非常に危険なことだと思ひま

す。そのような不衛生な水分補給ではなく、  
 いっでも綺麗で安全な水が手に入るというこ  
 とはすごい恵まれ、とても幸せなことだと思  
 います。

日本には「湯水のように」という無駄遣い  
 を表す言葉があります。昔から水は、惜しげ  
 もなくむやみに費やしてもよいと思われ、く  
 らいたくさんあつたのです。しかし、近年は  
 様子が変わってきています。急激に増化して  
 いる世界の人口は遠からず百億人まで達する  
 と予想されています。つまり、無駄遣いをで

きるほど水に余裕はないというのです。水  
 資源は必ず有限で、困る事態もあり得るので  
 す。そのことを私たちは肝に銘じて、水を大  
 切に惜しみながら利用するべきです。

自然にはたくさんのお水が溢れていても、水  
 を必要としていているのは私たち人間だけであ  
 りません。たくさんのお動物、たくさんのお植物  
 地球に存在する全ての生き物が水を必要とし  
 ています。私たちがむやみやたらに水を使

果たしてはいけないと思います。今の時代に  
 生きるものだけではない。生命をもつもの全  
 ての子孫のためにも水は大切に受け継がなけ  
 ればなりません。その水を私たちが今、節水  
 もしないで使い尽くしてしまえば、後に生き  
 る人たちも大変なことになるのです。そのよ  
 うなことをしっかりと考えて私たちの生活を  
 支えて下さっている水道局の皆さんに協力し  
 たり、自宅の水利用に無駄をなくすように心  
 配りをしなければいけないと考えます。

みなさんは実際に水の節約に取り組んでい  
 ますか。私は食器を洗うときや歯をみがくと  
 きに、水を出しっぱなしにしない、またシャ  
 ワーを出しっぱなしにしないなど、少しずつ  
 ですが節約に取り組んでいます。すごく小さ  
 くて身近にあることですが、その小さなこと  
 もみんなが取り組めば大きな対策になる。私  
 は思います。夫と皆さんの入浴、自然に、水に  
 恵まれている日本の社会に感謝をして、水を  
 貴重に感じて使うようにするべきなのです。



みんなが小さなことから取り組んでいきまし  
 う。

私の家のそばには北上川が悠然とした流れ  
 で海へと向かっています。その川の水がどれ  
 だけ私たちにあって大切なものか、どのよう  
 に有効活用できるかもし、カリと学んでいき  
 たいと思います。これからも積極的に身辺に  
 ある水資源を守る実践をしていきます。全生  
 命の源である潤いを美しく守っていきたく  
 思います。

水道の蛇口をひねれば、心からおいしいと  
 思える水が飲める喜びをかみしめていきまし  
 う。透明できれいな水を私たちに贈ってく  
 ださっている水道事業に携わる皆さんの一つ  
 一つの苦勞や配慮に報いるためにも水の価  
 値をたくさんの人に伝えたいと思います。  
 そして、健康的に水を活用し、生活の潤い  
 を心掛け、みんなが日本の水のすばらしさを  
 分かち合えるように、家族や活動を共にする  
 仲間達と水を大切にすすめる心を広げ続けま  
 す。

小さくも偉大な水道

及川 好

水道水。それは、蛇口をひねれば直ぐに出  
てくるものであり、あつて当たり前と人々に  
認識されていゝものである。しかしそれは  
裏を返すと、なくてはならないものといふ  
うにも捉えることができないだらう。  
か。今ではどこの家にも普及してゐる水道。  
多くの人が必要とし、様々な目的や用途で  
活躍してゐる水道。

では、これらは一体どのような場面での活  
躍を見せていゝのだらうか。

たとえば、人間が食事をするのに欠かせな  
い調理のとき、我々は水を使って様々なメニ  
ューを作る。みそ汁やラーメンを作り、  
白米を炊いたりするのにも水を多く使うので  
ある。それだけでなく、水は、ナスなどのよ  
うに、皮を剥いた後、直ぐに酸化して色が変  
わつたりしてしまふものを、水に浸けること  
で酸化を防いだりすることができゝる。

このように、水道水は一つの物事の中であ  
れど、多くの場面で活躍するのであるという  
ことができる。

水道の歴史は古く、有名な物といえば、天  
正一八年、つまり一五九〇年頃に神田川から  
江戸城下に引いた「小石水道」というものが  
あり、江戸時代には神田上水、玉川上水が作  
られ、最大一五〇キロメートルという長さ  
にまでなつたのだという。

しかし、何故この時代にこのようなものが  
できたんだ？と、不思議に思う人も少なくは  
ないだろう。何せ、まだ電気すらないような  
時代なのだから。大きな理由としては、二つ  
のことが挙げられる。

まず一つ目は、江戸の町が元々湿地帯の上  
にあり、良い井戸をなかなか掘ることができ  
なかつたからだという。掘つて得られなけれ  
ば引いてくれば良い、という当時の人々の考  
え方は的確で正確な考え方だというところがで  
きるだろう。

二つ目の理由は、日本人の綺麗好きという  
点が挙げられる。昔は今より川が綺麗だ、た  
のだ。そんな、綺麗な川の水を好んだという  
話もあるのだ。これは、我々でもよく理解で  
きて、よく分かる理由だろう。  
さて、時代は代わって大正時代。この時代  
にはすでに、ほとんどの水道の供給網が完成  
していったが、安定供給のために、村山貯水池  
などの第一期整備計画を実施中だ、た。

時代は更に代わり、明治時代を迎え、江戸

は東京へと変わった。しかし、町の水道設備  
は変わらずのままだ、た。そして、上水路の  
汚染や木通の腐朽といった問題が発生し、近  
代水道の創設を求める声が高まりを見せた。  
更に、明治一九年のコレラ大流行により、  
近代水道の創設に拍車をかけたのだ、た。こ  
うして明治二十一年、東京近代水道創に向けた  
本格的な調査等が開始された。  
このように、水道は長い年月をかけて新し  
い形へと変わっていった、た。方法を変え、形を

変え、規模を拡大させ、様々な「進化」と呼べることを繰り返し、今の我々が使っているものへと変化してきた。生き物と同じように環境に応じ、状況に合わせて、適確に最善の形へと。  
これらのことにより、今の我々が使っている水道がいかにも快適で安全で楽なものなのか分かるだろう。我々が普段、何気なく使っている水道と水道水。それが、生活する上で最も大切であり、必要なものであるか良く分かる。  
人間の体は、約六〇パーセントが水分でできているという話がある。人間や動物にと、て水は命と同等に大切なものとなる。命と同等という表現は、さほど大袈裟な表現ではない。  
例えば、辺り一面が砂だけの砂漠。そこに  
は当前に川や池、湖などといった水源はほとんどない。そのような場所にある街では水が重宝される。なぜなら、水が無ければ当前、

死んでしまいうからである。ただ、水がないだ  
けで死んでしまいうのだ。その上、先程言っ  
ように、砂漠には水源がほとんどない。  
それらを考えると、水道のような、蛇口を  
ひねるだけで水が手に入る環境というのは、  
本当に恵まれている。

私は今後、このような小さくも偉大な歴史  
や物事に深く関心を持ち、生活していくこと  
が重要になるのではないかと考えている。

「命の源」

及川 莉奈

人と水は常に密接的な関係にあると言える。成人の体は約六〇%の水分でできている。また、人は食事を一日や二日とらなくても死なないが、水分が不足すると活動が停止してしまいうえうた。このように、人にとって水分とほ生きていく上で必要不可欠なものである。皆さんは四大公害病である「水俣病」を信じだううか。水俣病とは又チル水銀化合物

という人体に害のある物質による河川の汚染が、主な原因だと言われている。その他にも清潔な水が確保できないうえに、病原菌が繁殖し昔の人々には多く亡くなっている。私たちが今、健やかに過ごしているのは「清潔な水」が確保できているからである。では、何故私たちは水を確保できているのだろうか。それは「浄水場」の設立と「水道」の普及が進んだからだ。昔の一般家庭では川の水をそのまま使用するのが普通であ

たが、今では、河川から取水した水を浄水場  
で浄化、消毒し、上水道へ供給されているた  
め安全に使用することができるのである。  
また水は、日本に経済的効果を与えてくれ  
ている。スーパーなどで売られている天然水  
などは、全国で販売されている。このように  
水は日本の、いや、地球上の生物全体的に命  
の源となっているのだ。  
しかし、人々は水を大切にしてい  
ない。水の無駄使い、ゴミのポイ捨てなど。  
安全な

水を主張しているのにも関わらず、この行  
動は矛盾している。  
私は東日本大震災を体験した。その際、必  
要になつたものは電気、ガソリン、そして水  
だ。水がない生活はとても不便であつた。お  
風呂に入れず、水が飲めない、手が洗えず  
ない、トイレで水が流せないなど。  
「当たり前」が「当たり前」でなくなった瞬間  
私たちは困惑し、何もできなくなつてしま  
た。ガソリンが不足したとき、泥棒が二



ユースとなった。ガソリン泥棒である。このように人間は窮地に追い込まれると正しい判断ができなくなってしまうのである。もし水が汚染され、安全な水が確保できなくなると、水が貴重品となり、水の無い生活が続くだろう。そうすれば、不衛生になりウイルスに感染し、水を盗む水泥棒が増え、てしまうなど人類は多大な損害を被ることだろう。

そして、今問題化している、水の無駄使い。よく節水という言葉が本当に実現できているだろうか。私はお風呂が大好きで、運動部ということもあり、一日二回お風呂に入ることも少なからずある。その際、シャワーを出しっぱなしで三十分以上お風呂にいらることがあり、母によく怒られる。皆さんはどうだろうか。歯を磨くとき、水を出しっぱなしにしていないだろうか。手を洗うとき必要以上に出す水を出してはいないだろうか。地球は水が豊富にある。海はとても広い。しかし、無

限というわけではないのだ。水は熱によ  
蒸発する。もし、人が水を使いすぎ、雨が降  
らなくなると、しましたら、水は枯渇するだろ  
う。そうすれば、一か月か経たないうちに地球  
上の生物のほとんどが絶命してしまおうだろ  
う。このように、水とは私たち生物が生き  
いくのに必要なものなのである。命の源。そ  
れは水。そしてそれは無限でもなく、あ  
る当たり前のものではないということを私  
は多くの人に知ってほしいと考えている。私  
たちの生活を崩してしまおうのは、私たち自身  
であること。しかし、それは一人一人の意識  
で防ぐことができるとのこと。私たちの生  
活はたくさんの人々の支えによつて支えられ  
ているというところ。水をきれいにしてくれ  
る人がいて、私た  
ちは安全に水を飲むことができているのだ。  
それを「当たり前」と感じるのでなく、感  
謝の気持ちを持ってほしいと私は思っている。  
私たちの生活を守る。青く美しい地球を守る

た  
め  
に  
、  
水  
を  
入  
切  
に  
し  
て  
い  
き  
た  
い  
。